

政策番号	3	政策分野	青少年の成長と参加
------	---	------	-----------

基本方針 青少年が社会を構成する担い手として、みずから考え、行動する大人へと成長、自立することを支援するため、多様な体験、社会参加の機会を提供し、自主的な活動を促進するとともに、社会全体で青少年の育成を支援する体制づくりを推進する。

担当局	文化市民局
-----	-------

共管局	
-----	--

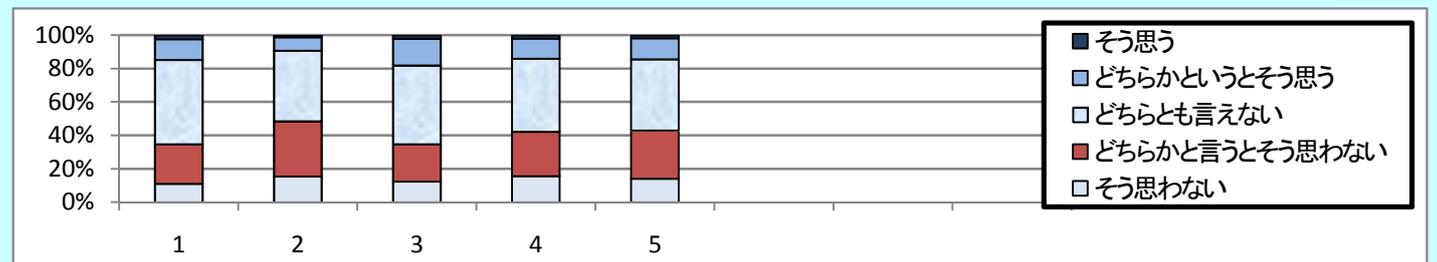
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年 度	年 度	23年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 青少年活動センターで活躍するボランティア数(人)	814	970	-	-	664	814	818	99.5%	b
2 青少年(13歳～30歳)が参画している審議会等の割合(%)	10.5	20.0	-	-	17.1	10.5	18.0	58.3%	d
3 自立に向け改善した青少年の割合(%)	-	30	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価					c				

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	年度	23年度
1	青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。	-	-	c
2	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。	-	-	d
3	青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。	-	-	c
4	青少年がニート(仕事も家事も通学もしていない15歳から概ね34歳までのひと)、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できるところがあり、支援がされている。	-	-	d
5	青少年の成長を支援する社会環境と、青少年を受け入れる居場所がある。	-	-	d
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価		d		



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	18	12.2%

3 総合評価

C	政策の目的がそこそこ達成されている	年度	-
<p>【客観指標】・青少年活動センターのボランティア数は大幅に増加し、過去最高に上ったが、わずかに目標に届かず、b評価となった。気運の高まりと共に、更なる情報発信の余地もうかがわれる。</p> <p>・青少年が参画する審議会等の割合は、任期切れや年齢の上昇に対して新たな人材の確保が追いつかず、大幅に減少し、d評価となった。</p> <p>・自立に向け改善した青少年の割合は、平成22年10月から新たに事業を始めたものであり、年間の実績値がまだないため、次回から評価を行う。</p>		年度	-
<p>【市民の実感】・青少年の将来設計、ニートや不登校、成長できる環境づくりなど、青少年の将来に関わる設問に否定的な回答が多く、青少年の将来に対する憂慮がうかがわれる。</p> <p>【総括】・客観指標が市民の実感を上回る結果となった。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。</p>		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
0301	青少年の自主的な活動の促進	-	-	B	73
0302	課題に直面する青少年の総合的支援の推進	-	-	C	75
0303	青少年の成長を支援する環境づくり	-	-	B	77

<今後の方向性>

・平成23年3月に策定した「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン-第3次京都市青少年育成計画-」基本計画及び行動計画に基づき、新たな課題に即座に対応していくこととしている。

・本プランと平成22年3月に策定した「京都市未来こどもプラン」を「子ども・若者育成支援推進法」に規定される「市町村子ども・若者計画」と位置付け、両プランにより、子ども・若者を社会全体で見守り、支援する取組を推進することとしている。

・平成22年10月から「子ども・若者総合相談窓口」を「京都市中京青少年活動センター」及び「京都市教育相談総合センター」内に開設、「子ども・若者支援地域協議会」を設置し、教育、福祉、保健、医療、雇用等幅広い分野の関係機関との連携により、支援コーディネーターがニート・ひきこもり・不登校等の社会的自立を支援することとしている。

政策名	3	青少年の成長と参加
-----	---	-----------

指標名	青少年活動センターで活躍するボランティア数（人）	
-----	--------------------------	--

担当部室	共同参画社会推進部	連絡先	222-3222
------	-----------	-----	----------

1 指標の説明

青少年活動センターで活動するボランティアの数

2 指標の意味

事業の企画、運営等に参画する青少年の状況（社会参加活動）を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 814	平成32年度目標値 970	根拠 平成15年度から平成20年度現況値(788人)までの5年間の増加数(182人)を、平成20年度から平成32年度までの増加数として当てはめた数値
----------------------	------------------	------------------	---

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	664	814	150人増	818	平成32年度の目標値から各年度の目標値を等差的に算出	99.5%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					

5 評価基準

単年度目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：95%以上100%未満
c：90%以上95%未満
d：85%以上90%未満
e：85%未満

6 基準説明

平成32年度の目標値の達成には相当の努力を要するものの、年次ごとの目標値を上回することは不可能でないため、達成度100%以上をa、以下5%刻みで按分した。

7 評価結果

		23
-	-	b

指標名	青少年（13歳～30歳）が参画している審議会等の割合（%）	
-----	-------------------------------	--

担当部室	共同参画社会推進部	連絡先	222-3222
------	-----------	-----	----------

1 指標の説明

市の全ての審議会のうち、青少年（13歳～30歳）が1人以上参加している審議会の割合

2 指標の意味

社会の幅広い分野において、意思決定の過程に積極的に青少年の力が生かされていることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 10.5	平成32年度目標値 20.0	根拠 平成21年度の実績が17%であり専門性、経験が求められる審議会等委員の性格から、平成32年度までに20%を目指す
----------------------	-------------------	-------------------	--

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	17.1	10.5	6.6ポイント減	18.0	平成32年度の20%達成の中間目標として、平成25年度まで18%に目標を設定	58.3%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		18.0%	25年度		平成32年度の20%達成の中間目標として、平成25年度まで18%に目標を設定。

5 評価基準

目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6 基準説明

当指標については、設置される審議会の属性や内容による部分が大きく、かつ審議会等の委員には専門性、経験が求められるため、最終目標を20%、中間目標を18%とし、達成度を20%ずつ均等に区分することで基準を設定した。

7 評価結果

		23
-	-	d

政策名	3	青少年の成長と参加
-----	---	-----------

指標名	自立に向け改善した青少年の割合（％）
-----	--------------------

担当部室	共同参画社会推進部	連絡先	222-3222
------	-----------	-----	----------

1 指標の説明

指定支援機関の支援コーディネーターが関係機関と連携し課題に直面する青少年を支援した結果、行動等の改善が見られるなど、社会的自立に向け改善した支援対象者の割合

2 指標の意味

社会生活を円滑に営むうえでの困難を有する青少年が、支援を受けた結果、生活における満足感や幸福感を高めていることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	-	30	若者サポートステーションの厚生労働省の基準値を参考に、支援対象者の属性を踏まえて設定した数値目標

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	年度	22年度		数値	根拠	
数値	-	-		(20)	平成32年度の目標値の達成のために23年度(次回評価時)に達成すべき数値	-

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	22年度10月より開始の事業で、支援対象者の状態が改善したかどうか、利用開始から6カ月時点で評価を行うため、評価値が出るのは23年4月からとなり、22年度については評価値がなく、24年度から評価を行う。
----	---

5 評価基準

数値が
a:100%以上
b:80%以上
c:60%以上～80%未満
d:40%以上～60%未満
e:40%未満

6 基準説明

均等に区分することで基準を設定した。

7 評価結果

		23
-	-	-